

知れませんが、国際的にはどのような教育手段があるのでしょうか？

10年以上も前に CEN(ヨーロッパ標準化委員会) でバイオテクノロジーの標準化を取り上げられた際に、私たちは“アジアでこのような組織が出来るのは何時のことだろうかとしばしば考えたものです。”その当時は中国も、韓国もどちらも余裕がなく、そのような標準化が必要だと考える人は誰もいなといても良い状態でした。現在のように、それぞれ、ある程度発展して標準化を考えなければならぬ世の中になってきたわけですが、お互いに協力し合うという態度ではなく、主導権の取り合い状態になってきました。韓国の劣等感と中国の事大主義が根本のようです。それでも日本は我慢して、平等主義のためには努力しなければならないと思われます。今度の第 15 回定例会で取り上げる漢方の標準化はその一例です。

2) 第 14 回定例会の報告

- 2-1 出席者 7 名 (会員 6 名) 送付先確認メール (194 名)
- 2-2 メール送付先の一人から要求があつて、その方には、MIT OCW の開き方を箇条書きにして報せましたが、うまく開けないという返事がありました。この箇条書きに基づいて、会場では、松坂さんに操作をしていただきましたが、やっぱりいろいろと引っかけりの場所があるようです。将来、さらに一工夫をする必要がありそうです。
- 2-3 さらに多くの無償講義があるようですので、この項目は将来また取り上げたいと思っています。
- 2-3 このような経験とさらに調査した結果をまとめて、整理して e-library に掲示する予定です。

3) 第 15 回定例会のお知らせ

バイオテクノロジー標準化支援協会 第 15 回 定例会

日時 2009 年 11 月 27 日(金) 午後 1 時 30 分—4 時 0 分

参加費：無料

- * (定例会は会員でも会員でなくても自由に出席して、自由に発言も出来ます。)
- * 2009 年 12 月は例会はお休みです。従つて次回は 2010 年 1 月 22 日 (第 4 金曜日) の予定です。

場所 八雲クラブ（ニュー渋谷コーポラス 10 階・1001 号）（首都大学東京同窓会）
前回の出席者の方から会場の場所が分かり難いというコメントがありました。
簡単な見付け方は、まず、“東急ハンズ”と パルコ III を見つけてください。ハンズの 正面から見て左の辻（つまりハンズとパルコ III との間の道）を入るとハンズの商品の搬入口があります。 その搬入口に向かって左側がニュー渋谷コーポラスの入り口です。）地図はホームページ ジャーナルの 10 号に載っています。
住所： 渋谷区宇田川町 12-3
電話番号： 03-3770-2214

話題

“中国伝統医学の標準化と漢方医学”

① 中国は伝統医学を世界標準の中に持ち込もうとしています。

約 10 年ほど前から WHO の中で“補完・代替医療”と“近代医療を受けがたい地域の医療”をめぐって、伝統医学を取り上げようという動きがありました。WHO の当時の日本の関係者は厚生労働省の“さたけもとよし氏”のようです。2008 年中国で行われた WHO の伝統医学の会合を基にして国際的に伝統医学を取り上げようという運動が活発化しております。既に鍼灸の経穴(361 穴)の名称の国際化(アルファベット 2 文字と数字))が来ています;たとえば、足三里穴(中国名は Zusanli)は ST36 (stomach channell 36。このような状況に基づいて伝統医学側からその医学としての正当化を目指した活動が ISO TC250 に持ち込まれ始めました。(ISO の TC 215 は Health informatics の部署で事務局は ANSI 2009 年までの Chair man は韓国の Yun Sik kwak 博士です。) ISO・TC 215/SC WG3 N

ISO/NWIP/TS – “Guideline for Traditional Medicine Terminology”

このような経緯とその後の経過は 厚生労働省 医政局 研究開発振興課 課長補佐 井本昌克氏によって詳しく纏められています。

“漢方医学の最近の国際動向について—ISO 化をめぐる動きを中心に”

② このような動きに、韓国は独自に対応しようとしています。

“Asian

Traditional Medicine Devices”

これは

韓国起源論の影響(中国からは非難の対象です)が大きいかもしれません。

③ このような動きを受けて日本での対応としては JLOM(Japan Liaison of Oriental Medicine) が窓口の様ですが対応はきわめて遅いような気がします。

第三回 21 世紀漢方フォーラム

——漢方の国際医療情報を考える——

が開かれました(内容は次ページ)。いろいろと熱心に議論されました。しかし、かつて、臨床検査関係の ISO 化 が始まった際にも日本における Japanese Committee for Clinical Laboratory Standards の対応は、まったく同じものでした。臨床検査の場合にはヨーロッパ対日本でしたのでまだ何とか形はつきますが、今度は東アジア対日本です。しかも上記二国の中心論点は日本の技術のようです。

④ 日本では**蘭法に対する漢方**であった様ですが、和法、皇法という使い方もあったようです。日本での本道医、外科医、口内医の歴史を掘り起こしてみるのも一つの興味です。世界でも古いといわれる入れ歯師の話も興味があります。

⑤ 学会にしても日本補完代替医療学会、日本東洋医学会、日本鍼灸学会などいくつもあるようです。日本生薬学会、和漢医薬学会などとの連携も含めて考え直してみるチャンスかもしれません。幾つかの大学にもそのような専門の講座、研究所が出来ているようです。あるいは、マッサージ、指圧、など、改めて伝統医療の中に科学的に取り上げるべき要素があるものであれば、見出す努力が必要なのかもしれません。

⑥ 世界の伝統医学あるいは医術あるいは祈禱術にはそれぞれの地方に独特のものがあるようです。ヨーロッパの魔女伝説、祈禱師、今に残るハーブ茶の伝統、アロマセラピー、カイロプラクティクス、など。

第3回 21世紀漢方フォーラム「漢方の国際医療情報を考える」

日時： 2009年7月31日（金）午後6時～8時半

場所： 慶應義塾大学医学部（信濃町）東校舎講堂

<http://www.sc.keio.ac.jp/campus.html>

プログラム

挨拶 末松誠（慶應義塾大学医学部長）

- ・ 基調講演Ⅰ： 瀧村佳代（厚生労働省大臣官房統計情報部ICD室長）
「WHO ICD改訂作業」
- ・ 基調講演Ⅱ： 渡辺賢治（慶應義塾大学医学部漢方医学センター長）
「WHO ICD11改訂作業の中での伝統医学」
- ・ 基調講演Ⅲ： 小倉悟（経済産業省産業技術環境局環境生活標準化推進室
課長補佐）
「ISOの仕組みと国際戦略」
- ・ 基調講演Ⅳ： 井本昌克（厚生労働省医政局研究開発課 課長補佐）
「漢方医学の最近の国際動向について」

特別発言 寺澤捷年 日本東洋医学サミット会議議長

パネルディスカッション：

進行： 宮野悟（東京大学医科学研究所教授）

渡辺賢治（慶應義塾大学医学部漢方医学センター長）

- ・ 鈴木寛 参議院議員（ビデオ出演）
- ・ 渡辺泰司 内閣府日本学術会議参事官
- ・ 木戸寛孝 医療志民の会事務局長

⑦ 標準化がはじまれば、宗教と科学との対立のようどこかで現代医療と伝統医療のすみわけが出来るようになるのかもしれませんが、基礎的な思考法の相違から科学教育の中の迷信教育みたいなものになる恐れもなきにしもありません。

⑧ 今回の話題はいろいろと複雑なので、元になる資料類をCDにまとめて配布する予定でいます。

4) ホームページに e-library のリストがあります。 会員の方はその中から希望のものをご指摘ください。